

## 令和5(2023)年度の出来事から

公文書室長 広瀬茂久

江戸時代のベストセラー 貝原益軒の『養生訓』の一節「…珍美の食に対すとも、八九分にてやむべし。十分に飽き満つるは後の禍(わざわい)なり…」にならって、人手不足/資金不足を気持ちで補いながら、何とか公文書室を切り盛りしてきたつもりですが、「貧すれば鈍する」は避け難かった気がします(実際は貧ではなく「老すれば鈍す」かも知れません)。退任にあたり、在任中気持ちよく協力いただいたスタッフの方々に感謝するとともに、上記格言の続き「貧すれば鈍する 鈍すれば窮す 窮すれば通ず」に期待したいと思います。

今年度は(1) コロナウイルス関連の規制が解除されこと、ダイバーシティの取り組みが本格化したこと、統合後の名称「東京科学大学 Institute of Science Tokyo」が正式に決まったことなど 歓迎すべき出来事に加え、(2) 過去の大災害や事件の周年行事と重なるように、「ビキニ被爆事件」から70年目の大国による“核の脅し”、「関東大震災」から100年目の能登半島地震など 心痛の年となりました。以下では私共の公文書室で印象的だった出来事をご紹介します。

### 1. ダイバーシティの先駆者 (DEI=Diversity, Equity & Inclusion)

ダイバーシティの取り組みを半ば強制的に進めている組織が多い中であって、100年以上も前に、ごく自然な形でDEIを実践していた本学の卒業生がいたことを知り感銘を受けました。この発端は、1通のメールでした。農研機構の研究者で、科学史家でもある加藤祐輔さんから、「現在、日本の女性科学者の草分けの一人、[加藤セチ](#)について伝記を執筆しています。セチの夫(加藤得三郎、旧姓 佐藤、セチとは同郷)は、貴学の出身(大正5年卒、1916)で卒業後しばらく貴学に奉職していました。関連の資料が残っていれば調査にお伺いしたく…」というわけで、後日、来訪された際にお話を伺うと、「加藤セチは北大に入学した最初の女子学生で、得三郎は加藤家の養子となり、家事育児などは積極的に引き受け、妻セチの研究環境を整えるとともに自身の仕事にも精を出した」というのです(セチは日本で3人目の女性理学博士ですが、[家庭を持つ女性としては最初の理学博士](#))。こうなると『加藤セチ伝記』の他に、もう一冊『加藤得三郎物語』を世に出そうという流れになります。後者については 出版社も子供向けの本にした方がDEI効果が高いだろうと考えてくれているようです。私たちの公文書室もDEIの浸透に少しは貢献できそうで嬉しく思います。



### 2. 関東大震災から100年/ミニ企画展示

本学の前身校があった旧浅草区蔵前は関東大地震に伴う火災旋風で壊滅的な被害を受けました。関東大震災の9月1日が巡ってくるたびに、甚大な被害をもたらした火災旋風が話題になります。防災の日と絡めて、私たちも[注意喚起に努めてきている](#)のですが、今年はその激甚災害から100年が経過した節目の年として、ミニ企画展『関東大震災に学ぶ火災旋風の恐ろしさ --- 関東大震災100年』(2023.12.15~2024.3.14, ①~⑥)を開催しました(展示資料36点)。本展では、(1) 焼失した区域を表す地図、延焼記録を付記した報告書や被災建物の写真などを通して本学が経験した関東大震災を振り返るとともに、(2) 被服廠跡④から生き延びた本学関係者の手記を読み解き、最も安全な避難場所と思われた被服廠跡地が想像を絶する地獄と化し、避難者4万人のほとんどが折り重なるように焼死した事実(大部分の焼死者は性別判定不能)と経過をまとめました。

火災旋風のメカニズムはまだ完全に解明されていませんが、防災の基本は耐震・耐火建築と身軽な早期避難(家財道具の携行は厳禁; 状況次第ですが初期消火)のようです。用意した2種の解説パンフレット(A4, 各8頁, ①&②)も好評でした。



ミニ展示会場（写っていない手前には、能登半島地震への思い、概要解説、パンフレット、及び Digital Signage がセットされている）

カメラを持っていた外国人教師 E.T. Sykes（中央）は数枚の震災写真を残した。上は母校の紡織科工場の焼跡。

### 3. 豊秋奨学会による訪問取材

トヨタグループの創始者となる豊田佐吉の右腕として活躍した西川次次（1881-1963, ⑦）は、本学で紡織の最先端知識を習得し（1908〔M41〕機織分科卒）、自動織機事業の基盤確立に貢献するとともに、佐吉の長男 豊田喜一郎が自動車への進出を決めた際にも全面的に支援しています。晩年には、“向学心がありながら 経済的理由で 勉学を諦めざるをえない人たち”のために奨学金を出したいと考え、「豊秋奨学会」を創設しました。今回は 奨学会ゆかりの地の一つとして東京工業大学を選んでいただき、創設者である「次次」の本学での学びを掘り下げ、学生時代の大切さを現在の奨学生に伝えるための取材でしたが、私たちにとっても明治後期の本学の様子（学科横断科目の設定や留学生や外国人教師の動向を含めて）をより良く理解する機会となりました。

### 4. リベラルアーツ教育院（ILA）との連携

学内外からの問合せに応えるレファレンス業務に力を入れてきた甲斐があって、公文書室の資料を利用した教育研究が盛んになってきました。教育面では、学士2年次向けの「大学史」と修士1年次向けの「東工大のキャンパスに親しむ」という文系教養科目に協力し、学生による資料館・公文書室利用の拡大、及び学生自身が記録を未来に残すべく情報発信するという好循環が生まれています。両科目とも多数の受講生を集める人気科目となり、「東工大教育賞」を授与されています（⑧、2023年11月、代表者：多久和理実 ILA 講師、山崎鯛介 博物館教授）。

研究面では、(1)前身校時代（明治・大正）及び旧制大学時代（昭和初期～終戦直後）の留学生の調査や (2) 本学にルーツがある「民藝」や「図案 Design」及び科学と芸術の融合分野など

に興味のある ILA 教員との連携が深まりつつあります。具体的には、「未来の人類研究センター」（ILA 教員が中心となって科学技術創成研究院に設置されているセンター）が取り組んでいる『利他プロジェクト』関連の対談や座談会に参加しています。今後、ILA とより緊密な関係を築き、理工医と人文社会を往来する研究の触媒役という高度な役割も果たせる公文書室を目指して欲しいと願っています。

### 5. 室長の交代

資料館（2013.4）や公文書室（2015.4）の設置・運営に関わった広瀬茂久は 本年度末（2024.3.31）で退職します。この間に 修士課程学生向けキャリア科目の教材「蔵前ゼミ印象記」や資料館・公文書室の刊行物「今月の一枚 No. 1~115」「とっておきメモ帳 No. 1~17」、「発掘！東工大の研究と社会貢献 No. 1~9」（同窓会誌にも転載）などの執筆活動が評価され、『蔵前特別賞』を授与され、思いがけない退任記念となりました。

後任の小林隆夫は音声情報処理が専門で、様々な話者の声でしかも多様な感情表現や発話スタイルによる音声をコンピュータにより生成する「表現豊かな音声合成」のパイオニアで、電子情報通信学会と IEEE（アイ・トリプル・イー）のフェローに選出されています。すずかけ台図書館長の経験もありますので、資料館・公文書室のデジタル化 DX の推進に適任です。

私たちは空気なしには生きられません。水も必要です。公文書室も必須でしょう。空気や水をよどませてはならないように、公文書室もよどませてはならないというのが室長としての9年間の思いでした。利用者の方々やスタッフの皆さんにはどのように映ったでしょうか。



⑧「より優れた教育の推進に」功績のあった教員に令和4年度（2022.4～2023.3）東工大教育賞を授与

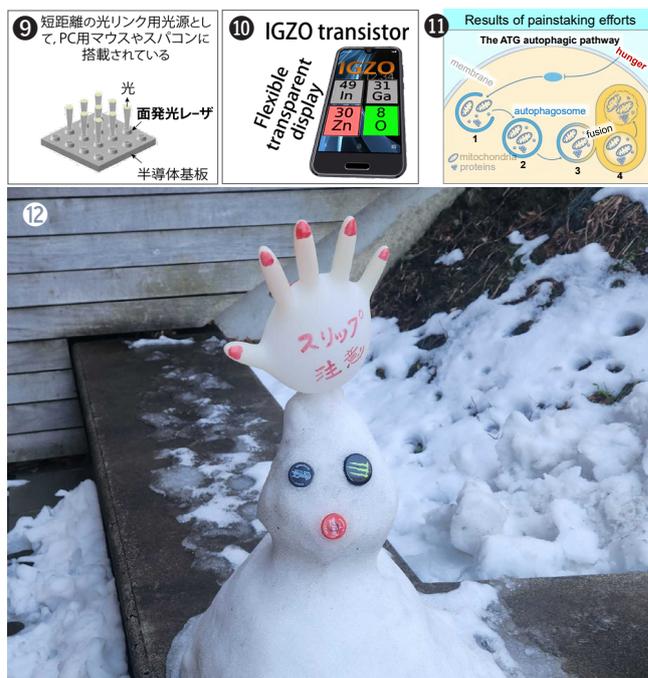


## Refresh Corner

すずかけ台キャンパスはイノベーションの里として世界に知られています：(1) 面発光レーザーの伊賀健一 & 小山二三夫研究室<sup>9</sup>，(2) ディスプレイ用金属酸化物薄膜トランジスタを発明した細野秀雄研究室<sup>10</sup>，(3) オートファジーでノーベル賞を取った大隅良典研究室<sup>11</sup>などが軒を連ねています。

起伏に富む丘陵地であることも魅力の一つですが、積雪に弱いのが難点です。先日(2024.2.5)の雪で思わぬ光景が出現しました。滑って転ばないように、比較的長い雪道をゆっくり歩いて公文書室が近づくと、『短いトンネルを抜けると、そこは公文書室への階段だった』というわけで、最後に階段という難関がありますが、そこにこの世のものとは思えない奇抜な雪人形<sup>12</sup>が登場したのです。頭のとっぺんからマニキュアを付けた手が伸びて、「スリッパ注意」と呼びかけていました。

これは留学生たちの作品に違いのないと思い、和英併記で「この傑作を記録に残したいので、作者は公文書室までおいでください」と張り紙をしたところ、現れたのは、何と清掃のオジさんでした。「将来ある若者が転んで頭を打たないようにと思ひまして…」とおっしゃるの聞いて、「これは『[今月の一枚](#)』でとりあげなくては！」と思った次第です。大きく張り出されたポスターを見た雪人形製作者の方は、「涙



が出るほど嬉しかったです」と手製のお菓子を持って来られました。私たち公文書室のスタッフも涙ぐみながら心のこもったお菓子を味わいました。これも、広く社会に奉仕すべき公文書室としては、ダイバーシティ & 働き方改革につながる一歩かも知れません。

## 令和5年度(2023)に受け入れた特定歴史公文書等のリスト

法人文書ファイル名	作成又は取得者
評議会 平成4年度	庶務部庶務課庶務掛
部局長会議 平成4年度	庶務部庶務課庶務掛
規則制定改廃 平成4年度	庶務部庶務課法規掛
生存者叙勲 平成24年春	総務部人事課人事企画グループ
死亡叙位叙勲 平成24年度	総務部人事課人事企画グループ
永年勤続者表彰 平成24年度	総務部人事課人事企画グループ
東京都科学技術功労表彰関係 平成23,24年度	総務部人事課人事企画グループ
文部科学大臣表彰 平成24年度	総務部人事課人事企画グループ
東工大教育賞 平成21~24年度	総務部人事課人事企画グループ
工学教育賞 平成20~24年度	総務部人事課人事企画グループ
職務表彰 平成20~24年度	総務部人事課人事企画係
東工大特別賞 平成21~24年度	総務部人事課労務室人材育成グループ
学校基本調査 平成24年度	総務部評価・広報課広報・社会連携グループ
収入・支出概算要求に関する文書 平成25年度	財務部主計課予算グループ
全学科目教育協議会 平成24年度	学務部教務課教育企画グループ
全学科目教育協議会 平成24年度	学務部教務課教育企画グループ
教育推進室教育推進会議 平成24年度	学務部教務課教育企画グループ
インターンシップ推進協議会 平成23・24年度	学務部教務課教育企画グループ
学部・大学院改革推進検討部会 平成23・24年度	学務部教務課教育企画グループ

法人文書ファイル名	作成又は取得者
入学時期のあり方検討部会 平成23・24年度	学務部教務課教育企画グループ
震災ボランティア 平成29年度	学務部学生支援課支援企画グループ
清華合同プログラム 平成24年度	国際部留学生交流課事業推進グループ
赴日予備教育 平成24年度	国際部留学生交流課交流推進グループ
日韓理工系学部留学生事業 平成29年度	学務部留学生交流課事業推進グループ
職員会議 平成14年度	工学部附属工業高等学校事務部庶務掛
国立学校施設実態調査報告書 平成4年度	施設部企画課企画掛
理学部教授会 平成4年度	理学部事務部庶務掛
工学部教授会 平成4年度	工学部事務部庶務掛
生命理工学部教授会 平成4年度	生命理工学部事務掛
精密工学研究所教授会 平成4年度	精密工学研究所事務掛
工業材料研究所教授会 平成4年度	工業材料研究所事務掛
資源化学研究所教授会 平成4年度	資源化学研究所事務掛
原子炉工学研究所教授会 平成4年度	原子炉工学研究所事務部庶務掛
職員会議 昭和55,56,平成4~13年度	工学部附属工業高等学校事務部庶務掛
理学部教授会 昭和42~58,60~63,平成1~3年度	理学部事務部庶務係

## 公文書室 業務日誌（抄）

年	月	日	業務内容
令和5 (2023)	5	1	木村公優（教務課教育企画G主任）来館 _ 滋賀重列資料閲覧
		2	&10/2：松田克子（初代事務局長 石井茂助の孫）来館 _ 情報提供；5/13~14 ずずかけ Science Day に出展
		19	& 7/14, 2024/3/18--19：田坪 賢人（大阪公立大学 JSPS PD）古橋家文書の調査
		25	加藤 諭（東北大史料館 准教授）来館 _ 見学 & アドバイス
		29	若手職員研修（9名来館）
		31	図書館職員9名来館（見学）
	6	5	~7/6：各部局との法人文書移管に関する打合せ（Zoom）
		9	害虫侵入防止のために IPM 防虫テープを設置（埼玉福祉会・IPM サポート株式会社）
		22	総務課主催の法人文書ファイル管理研修で移管手続きと公文書室の役割の説明（zoom）
	7	6	~7 & 8/2：大岡山所在部局の移管文書の回収
		26	Thorben Pelzer（Leipzig University；慶大, JSPS PD）中華民国時代の技術系留学生の調査
	8	2	豊秋奨学会の取材に協力
		3	& 9：田村幸男（目白学園 専務理事）傍系入試の調査
		25	都立西高校 1 年生の見学・取材に協力
	9	11	除湿器の修理（無償）
	10	1	小林 隆夫（特任教授）& 渡辺 菊乃（事務支援員）着任
	11	9	発掘！「東工大の研究と社会貢献」シリーズの No. 9「製鉄技術の変遷と東工大」を刊行
		24	東京医科歯科大学との打合せ（統合に伴う公文書室の名称変更等）
		31	館内虫害調査
	12	7	加藤 祐輔（農研機構ユニット長）来館 _ 加藤 得三郎（T5 附設工業教員養成所建築科卒）の調査
		15	~3/14：ミニ企画展『関東大震災に学ぶ 火災旋風の恐ろしさ』、一般公開 1/9 ~
20		Z. J.（建築系大学院生, 博士課程）来館 _ 冷耿光（1922 建築科特別本科卒）の調査	
令和6 (2024)	1	5	岡田佐織（リベラルアーツ研究教育院, 准教授）来館 _ 東工大の教育改革の歴史調査
		5	K. W.（京都工芸繊維大学, D3）_ 戦前期の日本で図案を学んだ中国人留学生の調査
	3	5	資史料等審査部会（Zoom）；3/7 & 21：澤井勇海（成蹊大学, 4/1 から東工大准教授）教授会資料調査
		31	「公文書室だより」No. 9 刊行

### 寄贈資料一覧 & 資史料館からのお知らせ

◆ 下記資料を寄贈いただきました（2023年4月から2024年3月受領分の一部）。

寄贈者	資料名	寄贈者	資料名
筑波大学	創基百五十一年 筑波大学五十年史（2023）	港区立郷土歴史館	ある図案家の仕事（特別展の図録, 2023）
東京外国語大学	東京外国語大学 150 年のあゆみ（2023）	小林 修	『無尽蔵』 向山光昭先生 追悼集（2023）
蔵前工業会	蔵前ジャーナル（No. 1096-1101）	辻 喜久子	『精技究理』（辻 茂 名誉教授遺稿集, 2018）
工大祭実行委員会	工大祭パンフレット（1981-2009）	坂庭好一	『伝承と創造』（岸源也先生著作集刊行会, 1995）
リベラルアーツILA	教養卒論優秀論文集 R1, 3, 4	大山真司	バドミントン部創立 60 周年記念誌（DVD-R 版）
山崎正勝	西脇安 文書 1~3（586 点）	小倉康嗣	東京工業大学金属工学科と関連組織の 80 年
友兼清治	遠山啓 日記（1948-1966）	上野芳廉	卒業記念帳 & 卒業証書（大正 7）
松岡昌志	戦中戦後の卒論（谷口忠 研究室）	星野浩一	勤労働員継続の通知書（昭和 20 年 4 月 10 日）
木村公優	『建築』（東京高等工業学校建築科編）	三谷朗里	授業ノート（昭和 3 年頃）

◆ 公文書室（G5-7F, 705 号室）及び百年記念館（2F, 企画展示室）で、「発掘！東工大の研究と社会貢献」、「資史料館 っておきメモ帳」を配布し、「note」にも掲載しています。「今月一枚」も Facebook にアップしています。

東京工業大学公文書室だより 第9号 2024年3月31日発行

編集・発行 東京工業大学博物館資史料館部門公文書室

226-8501 神奈川県横浜市緑区長津田町 4259, G5-14 TEL 045-924-5501

E-mail [centshiryouto@jim.titech.ac.jp](mailto:centshiryouto@jim.titech.ac.jp) URL <http://www.cent.titech.ac.jp/indexArchives.html>